



## DATA

■お問い合わせ先  
JAあきた北 販売営農部  
TEL.0186-42-8800  
http://www.ja-akitakita.or.jp

### もっと知りたいデルフィニウム!



たっぷりとした家穂の圧倒的な存在感のデルフィニウム。語源はつぼみの形がイルカに似ていることからギリシャ語のイルカ「Delphis」から。

- ◎科名：キンポウゲ科
- ◎別名：千鳥草
- ◎花言葉：高貴、尊大

品種は4,000以上、背丈も30cm～200cmを超えるものまでさまざま。

## JAあきた北 デルフィニウム

高貴・尊大という花言葉をもつ、長い花穂が華やかな「デルフィニウム」が大好きです。切り花をよく購入しますが、どんな花なのか教えてください。



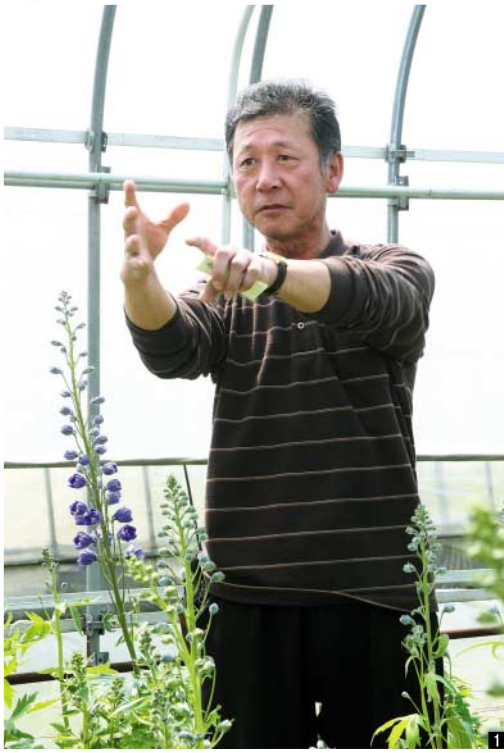
ナビゲーター  
JAあきた北 販売営農部  
副部長 佐藤 春美さん

**管内産ならではの特徴はありますか?**  
本来秋定植で春出荷のデルフィニウムですが、主な出荷先となる東京での需要期は結婚式やイベントが多い11～12月。そのため現在は夏定植

栽培を始めたさつかけと部会について  
二十数年前、旧比内町農協時代に「花卉栽培をしてみないか」と県の振興局の方からご提案いただいたのがきっかけです。当時は9名の生産者で比内町花卉生産組合を発足し、県内では初の生産地でした。それまで管内は稲作中心だったため、何もかもが初めての体験で、栽培方法をまとめるだけで3、4年かかりました。

栽培研究のために原産地である北欧へも視察に行きました。「花を作って海外に行こう」をスローガンに部会一丸となり、「デルフィニウム栽培を定着させたい」という生産者たちのパワーは相当なものでした。

秋出荷栽培にも取り組んでいます。県の普及員に相談したところ、夏を乗り切れるよう工夫で通常より大きい苗を考案していただきました。8年ほど前から生産しています。春出荷に比べ単価も高くなり、なにより花の少ない時期ということでも市場からも大変喜ばれています。さらに市場からは品質の良さ、花持ちの良さ、色や鮮度などの面で高い評価をいただいています。



1「農業は楽しく!」をモットーに栽培に励む、JAあきた北花卉部会デルフィニウム専門会会長の渡辺修一さん。2市場では「ひなのデルフィニウム」の愛称で親しまれている。繁忙期は1日30箱出荷する。3背丈は120cmが出荷基準。夏は5分、秋は7分咲きくらいで出荷する。4渡辺さんの娘さん(高松玲奈さん・29歳)が後継者。出荷準備している様子。5春は5～6月、秋は11～12月が出荷時期。出荷するものは「秀」が基本。6収穫したデルフィニウムは冷蔵庫で冷やし、1箱に30～40本のデルフィニウムを詰め出荷。7花の鮮度を保つためデルフィニウム生産者の出荷場には必ず冷蔵庫が置かれている。

